

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中等 3	学校名	県立古河中等教育学校						課程	全日制				学校長名	森 比呂志							
教頭名	中久喜 歩						美齊津 由香						事務(室)長名		尾花 義幸							
教職員数	校長	1	教頭	2	事務 長	1	教諭	4 8	養護 教諭	2	常勤 講師	0	非常勤講 師・ALT	10	実習助手 等	2	事務 職員	3	技術 職員等	5	計	7 4
生徒数	学科	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合 計						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数						
	普通科	6 0	6 0	6 0	6 0	6 0	6 0	6 0	5 9	6 0	5 6	5 8	5 6	3 5 8	3 5 1	1 8						

2 目指す学校像

○6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人に高い志をもたせ、その実現に向けて知性と人間性を育む。 ○科学教育や国際教育を推進し、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。 ○異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。
--

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	○6年間の学習指導計画概要を基に、年間計画及びシラバスを作成し、生徒の自主的・主体的な学習態度の育成を目指し取り組んでいる。	○生徒の自主的・主体的な学習態度の育成と個に応じた学習支援 ○6年間の体系的な学習シラバスをもとに、より効果的な教育活動の実践
生徒指導	○基本的な生活習慣の育成や望ましい人間関係の確立を目指し、個に寄り添った生徒指導を実践している。	○個に応じた生徒指導の望ましい在り方 ○教育相談体制の確立
進路指導	○6年間のキャリア教育計画概要を基に、生徒の発達段階に応じた進路指導を実践している。	○6年間を見通した体系的なキャリア教育の実践
特別活動	○学級活動(LHR)の時間を中心とし、生徒一人一人にとって居場所のある学校生活を送るための指導を実践している。 ○学校行事の具体化並びに生徒会活動における委員会と部活動の設置及び望ましい運営に向けて取り組んでいる。	○6年間を見通した自主的・自治的な活動を推進するための特別活動の在り方と実践
働き方改革	○2020年度ストレスチェックを分析すると、当該部署の仕事のコントロール度が全国平均より少し高いことを示し、改善を図る分析結果がでている。	○役割の分担や行事の精選を検討し、効率的かつ効果的な教育活動の実践

別紙様式 1 (中等)

4 中期的目標

- Σソフィア・プロジェクトと各種教育活動とを連携させ、体験的・探究的な学習活動を展開し、科学的思考力や判断力、表現力を培うことができる。
- 6年間の体系的なシラバス作成と学習システムを構築し、生徒一人一人が将来の夢や目標に向かって、自主的・主体的に学習に取り組むことができる。
- 学校行事や部活動、ボランティア活動などを通じて異年齢交流を行い、社会に貢献するリーダーとしての資質を育成することができる。
- 教職員が自らの人間性や創造性を高めながら、効果的な教育活動が行えるような環境の醸成に努め、働き方改革の実現を目指す。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
Σソフィア・プロジェクトの推進	○Σアカデミア(弛まぬ学ぶ力・自ら学ぶ姿勢の育成)、Σコミュニケーション(発信力・コミュニケーション能力の育成)、Σサイエンス(科学的思考力の育成)及び学校行事、各授業と連携しΣソフィア・プロジェクト(探究活動)を計画的に実施する。
開かれた学校づくりと広報活動の充実	○本校の特色ある教育活動及び教育活動全般について、ホームページや各種たより等で保護者や地域の方々に順次発信する。 ○感染症流行等の状況を的確に判断し、学校説明会や学校公開等の実施を図る。
高い学力の育成と探究的な学習の確立	○アクティブ・ラーニング型の授業やICTを活用した授業を展開するとともに、少人数指導、ティーム・ティーチング等の授業形態の工夫により、生徒がより自主的・主体的に取り組む学習指導、及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を展開する。また、生徒の能力に合わせた学習支援の場を設定し、個に応じた学習指導を行う。
生徒指導と教育相談体制の充実	○基本的な生活習慣を定着させるとともに、多くの体験活動を通して豊かな心の育成を図る。 ○スクールカウンセラーや担任等との面談や相談を組織的・計画的に実施し、生徒の「心の悩み」に対する支援を積極的に行い、生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図る。 ○学校環境衛生及び学校安全管理の維持向上を図る。
キャリア教育の推進	○学習と探究活動の系統的指導を通して、将来を見据えたキャリアプランニング能力の育成を図る。 ○課題を発見する力や自己管理能力の伸長を促し、生徒一人一人の目標実現に向けたキャリア教育を行う。 ○キャリア・パスポートを活用し、学びを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を促す。
働き方改革	○教育目標達成のための共通理解と情報共有をし、行事等の具体的見直しを図る。 ○積極的に勤務時間の削減を図り、職員が休暇等を消化しやすい環境整備に努める。